

学校いじめ防止基本方針

青森県立弘前実業高等学校

1 学校いじめ防止基本方針

いじめは、冷やかしやからかいなどのほか、情報機器を介したいじめ、暴力行為に及ぶいじめなど、学校だけでは対応が困難な事案も増加している。また、いじめをきっかけに不登校になってしまったり、自らの命を絶とうとしてしまったりするなど、深く傷つき、悩んでいる生徒もいる。いじめの問題への対応は学校として大きな課題である。

そこで、一人一人の生徒が主体的に意欲を持って充実した高校生活を安心・安全に送れるよう、いじめ防止に向け日常の指導体制を定め、いじめの未然防止を図りながら生徒の声に耳を傾け、いじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合は適切に且つ速やかに解決するための「学校いじめ防止基本方針」（いじめ防止全体計画）を定める。

2 いじめとは

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、生徒等に対して、当該生徒等と一定の人間関係にある他の生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(2) いじめに対する基本的な考え方

- ・「いじめは絶対に許されない」、「いじめはいじめる側が悪い」との認識
- ・「いじめは、どの生徒にも、どの学校においても起こり得る」との認識
- ・「いじめの未然防止は、学校・教職員の重要課題」との認識

※小さな変化やサインを見逃さず、軽微なものであっても適切かつ迅速に対処するという共通認識を持つ。

(3) いじめの構造と動機

①いじめの構造

いじめは、「いじめられる生徒」、「いじめる生徒」だけでなく、「観衆」・「傍観者」などの周囲の生徒がいる場合が多い。周囲の生徒の捉え方により、抑止作用になったり促進作用になったりする。※発展例 別紙5

②いじめの動機

いじめの動機には、以下のものなどが考えられる。（東京都立研究所の要約引用）

- ・嫉妬心（相手をねたみ、引きずり下ろそうとする）
- ・支配欲（相手を思いどおりに支配しようとする）
- ・愉快犯（遊び感覚で愉快的な気持ちを味わおうとする）
- ・同調性（強いものに追従する、数の多い側に入りたい）
- ・嫌悪感（感覚的に相手を遠ざけたい）
- ・反発・報復（相手の言動に対して反発・報復したい）
- ・欲求不満（いらいらを晴らしたい）

(4) いじめの態様

いじめの態様には、以下のものなどが考えられる。

悪口を言う・あざける、落書き・物壊し、集団での無視、陰口、避ける、ぶつかる・小突く、命令・脅し、性的辱め、部活動中のいじめ、メール等による誹謗中傷、噂流し、授業中のからかい、仲間はずれ、嫌がらせ、暴力、たかり、使い

走り

※けんかやふざけ合いであってもしっかりと調査を行い、いじめに該当するか否かを判断する。また、実情に応じて「いじめ」という言葉を使わず指導するなど柔軟な対応により対処する。※発展例 別紙5

3 いじめ防止の指導体制・組織的対応

(1) 日常の指導体制

いじめを未然に防止し、早期に発見するための日常の指導体制を以下のとおりとする。

別紙1 ※いじめ防止委員会の設置

(2) 緊急時の組織的対応

いじめを認知した場合のいじめの解決に向けた組織的な取組を以下のとおりとする。

別紙2 ※いじめ対策委員会の設置

4 いじめの未然防止

いじめの問題への対応では、いじめを起こさせないための予防的取組が求められる。学校においては教育活動全体をとおして、一人一人の生徒を尊重し、自己有用感や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てることが重要である。

(1) 学業指導の充実

- ・規範意識、帰属意識を互いに高める集団づくり
- ・コミュニケーション能力を育み、自信を持たせ、一人一人に配慮した授業づくり

(2) 特別活動、道徳教育の充実

- ・ホームルーム活動における望ましい人間関係づくり
- ・ボランティア活動の充実

(3) 教育相談の充実

- ・教育相談委員会の活用
- ・面談の定期的実施（4月、8月）

(4) 人権教育の充実

- ・人権意識の向上
- ・講演会等の開催

(5) 情報教育の充実

- ・教科「情報」におけるモラル教育の充実

(6) 保護者・地域との連携

- ・いじめ防止対策推進法、学校いじめ防止基本方針等の周知
- ・学校公開の実施

5 いじめの早期発見

いじめ問題を解決するために最も重要なポイントは、早期発見・早期対応である。生徒の言動に留意するとともに、何らかのいじめのサインを見逃すことなく発見し、早期に対応することが重要である。

(1) いじめの発見

いじめ行為を直接発見した場合は、その行為をすぐに止めさせるとともに、いじめられている生徒や通報した生徒の安全を確保する。「緊急時の組織的対応」により速やかに報告し、事実確認をする。

(2) いじめられている生徒・いじめている生徒のサイン

別紙3

(3) 教室・家庭でのサイン

別紙4

(4) 相談体制の設備

- ・相談窓口の設置・周知
- ・面談の定期的実施（4月、8月）
- ・投書箱「生徒の声（仮称）」の設置（随時）

(5) 定期的調査の実施

- ・アンケートの実施（Q-U 5月、生徒・保護者いじめアンケート7月、12月、3月）

(6) 情報の共有

- ・報告経路の明示・報告の徹底
- ・職員会議等での情報共有
- ・要配慮生徒の実態把握
- ・進級時の引継ぎ

6 いじめへの対応

(1) 生徒への対応

① いじめられている生徒への対応

いじめられている生徒の苦痛を共感的に理解し、心配や不安を取り除くとともに、全力で守り抜くという「いじめられている生徒の立場」で、継続的に支援することが重要である。

- ・安全・安心を確保する。
- ・心のケアを図る。
- ・今後の対策について、共に考える。
- ・活動の場等を設置し、認め、励ます。
- ・温かい人間関係をつくる。

② いじめている生徒への対応

いじめは決して許されないという毅然とした態度で、いじめている生徒の内面を理解し、他人の痛みを知ることが出来るようにする指導を根気強く行う。

- ・いじめの事実を確認する。
- ・いじめの背景や要因の理解に努める。
- ・いじめられている生徒の苦痛に気付かせる。
- ・今後の生き方を考えさせる。
- ・必要がある場合は懲戒を加える。

(2) 関係集団への対応

被害・加害生徒だけでなく、おもしろがって見ていたり、見て見ぬふりをしたり、止めようとしなかったりする集団に対しても、自分たちでいじめ問題を解決する力を育成することが大切である。

- ・自分の問題として捉えさせる。
- ・望ましい人間関係作りに努める。
- ・自己有用感が味わえる集団づくりに努める。

(3) 保護者への対応

①いじめられている生徒の保護者に対して

相談されたケースでは、複数の教員で対応し学校は全力を尽くすという決意を伝え、少しでも安心感を与えられるようにする。

- ・じっくりと話を聞く。
- ・苦痛に対して本気になって精一杯の理解を示す。
- ・親子のコミュニケーションを大切にするなどの協力を求める。

②いじている生徒の保護者に対して

事実を把握したら速やかに面談し、丁寧に説明する。

- ・いじめは誰にでも起こる可能性がある。
- ・生徒や保護者の心情に配慮する。
- ・行動が変わるよう教員として努力していくこと、そのためには保護者の協力が必要であることを伝える。
- ・何か気付いたことがあれば報告してもらう。

③保護者同士が対立する場合など

- ・教員が間に入って関係調整が必要な場合がある。
- ・双方の和解を急がず、相手や学校に対する不信等の思いを丁寧に聞き、寄り添う態度で臨む。
- ・管理職が率先して対応することが有効な手段となることもある。
- ・教育委員会や関係機関と連携し解決を目指す。

(4) 関係機関との連携

いじめは学校だけでの解決が困難な場合もある。情報の交換だけでなく、一体的な対応をすることが重要である。

①教育委員会との連携

- ・関係生徒への支援・指導、保護者への対応方法
- ・関係機関との調整

②警察との連携

- ・心身や財産に重大な被害が疑われる場合
- ・犯罪等の違法行為がある場合

③福祉関係との連携

- ・家庭の養育に関する指導・助言
- ・家庭での生徒の生活環境を把握する。

④医療機関との連携

- ・精神保健に関する相談
- ・精神症状についての治療、指導・助言

7 ネットいじめへの対応

(1) ネットいじめとは

文字や画像を使い、特定の生徒の誹謗中傷を不特定多数の者や掲示板等に送信する、特定の生徒になりすまし社会的信用を貶める行為をする、掲示板等に特定の生徒の個人情報に掲載する、などがネットいじめであり犯罪行為である。

(2) ネットいじめの予防

①保護者への啓発

- ・フィルタリング
- ・保護者の見守り

②情報教育の充実

「教科情報」における情報モラル教育の充実

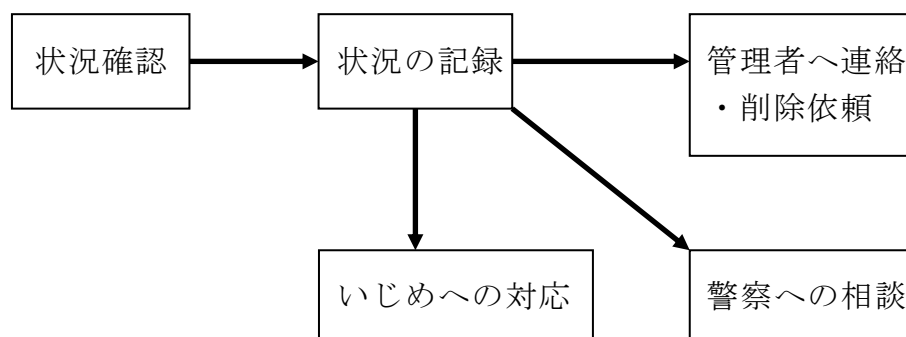
③ネット社会についての講話（防犯）の実施

(3) ネットいじめへの対処

①ネットいじめの把握

- ・被害者からの訴え
- ・閲覧者からの情報
- ・ネットパトロール

②不当な書き込みへの対処



8 重大事態への対応

(1) 重大事態とは

①生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある。

- ・生徒が自殺を企図した場合
- ・精神性の疾患を発症した場合
- ・身体に重大な障害を負った場合
- ・高額な金品を奪い取られた場合

②生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている。

- ・年間の欠席が30日程度以上ある場合
- ・連続した欠席の場合は、状況により判断する。

(2) 重大事態の報告・調査協力

校長が重大事態と判断した場合、または生徒や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申し立てがあったときは、直ちに県教育委員会に報告する。また、いじめ対策委員会に、必要に応じて学校評議員、警察、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医師、弁護士等の専門機関を加えた「いじめ調査組織委員会」を設置し、調査・事態の解決にあたる。なお、事案によっては県教育委員会が設置する組織が調査の主体となるため、調査組織に全面的に協力し事態の解決に向けて対応する。

9 評価

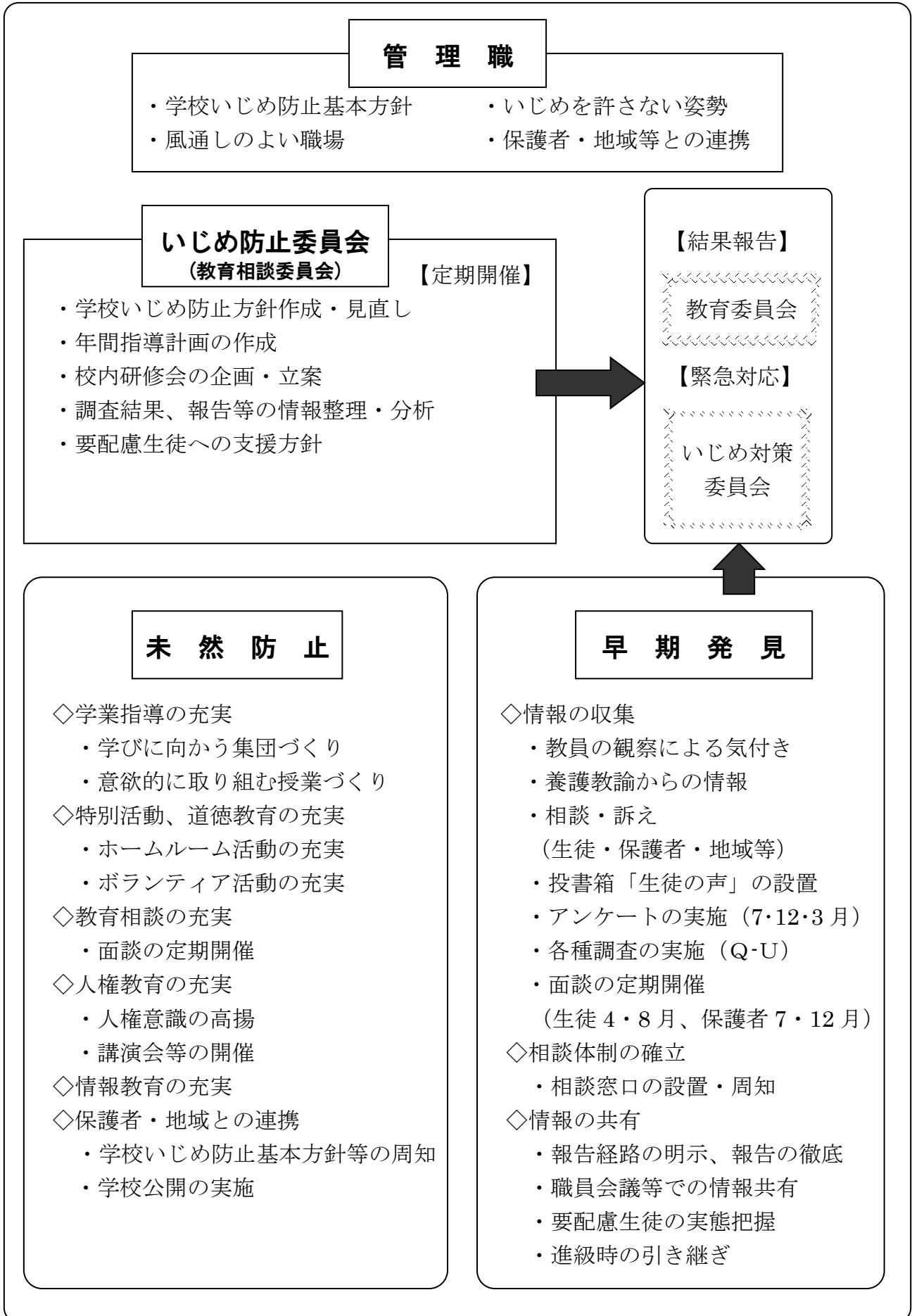
いじめ防止については、地域とともに取り組む必要があるため、基本方針を学校ホームページに公開するとともに、学校評議員会・PTA総会等あらゆる機会を利用し保護

者や地域に情報発信していく。

また、いじめ防止の実効性を高めるため、基本方針に基づく実施状況を学校評価に位置付け評価し、基本方針が実情に即して効果的に機能しているかについて対策委員会を中心に点検し、必要に応じて見直し改善に努める。

別紙 1

日常の指導体制（未然防止・早期発見）



管 理 職

- ・学校いじめ防止基本方針
- ・いじめを許さない姿勢
- ・風通しのよい職場
- ・保護者・地域等との連携

いじめ防止委員会 (教育相談委員会)

【定期開催】

- ・学校いじめ防止方針作成・見直し
- ・年間指導計画の作成
- ・校内研修会の企画・立案
- ・調査結果、報告等の情報整理・分析
- ・要配慮生徒への支援方針

【結果報告】

教育委員会

【緊急対応】

いじめ対策
委員会

未 然 防 止

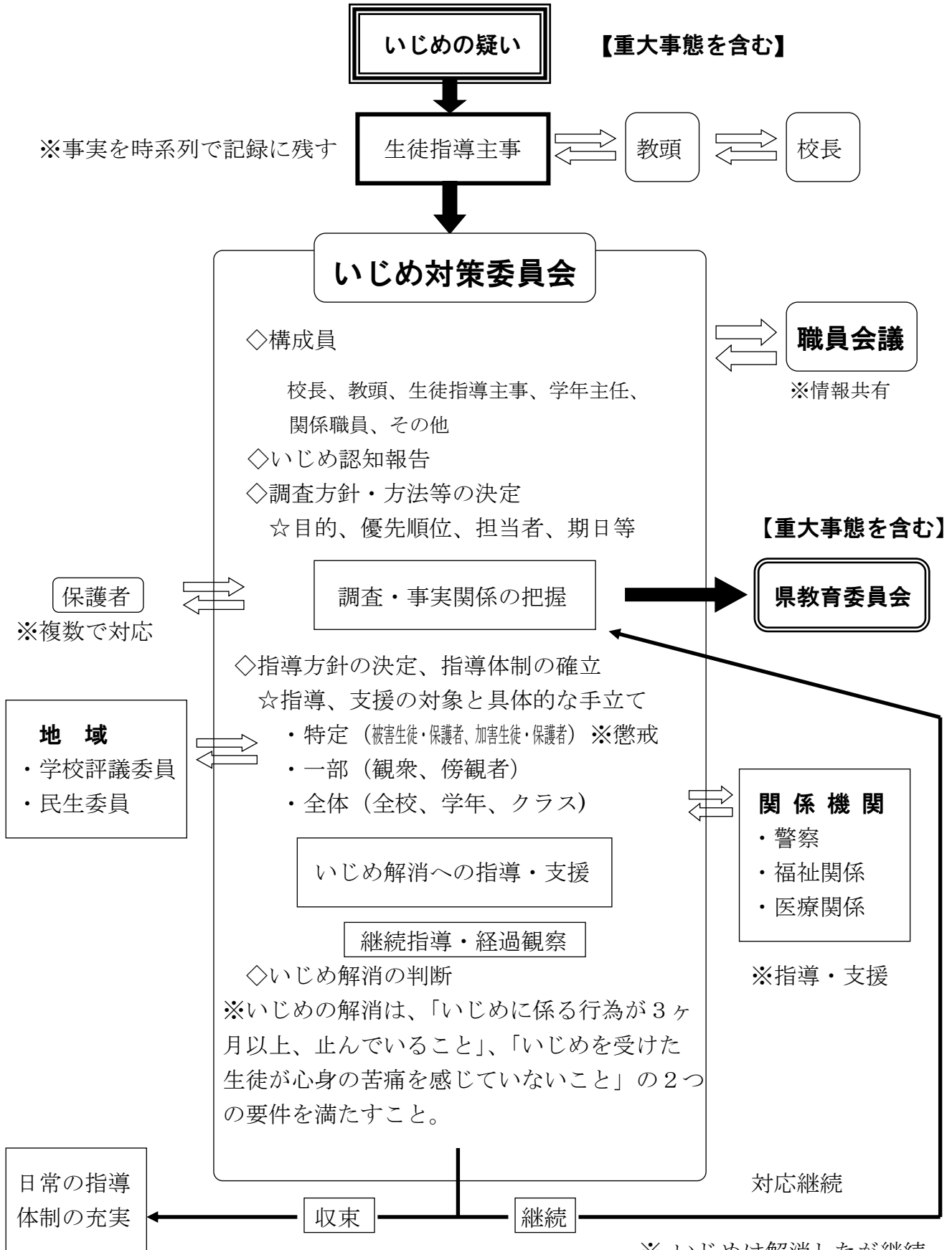
- ◇学業指導の充実
 - ・学びに向かう集団づくり
 - ・意欲的に取り組む授業づくり
- ◇特別活動、道徳教育の充実
 - ・ホームルーム活動の充実
 - ・ボランティア活動の充実
- ◇教育相談の充実
 - ・面談の定期開催
- ◇人権教育の充実
 - ・人権意識の高揚
 - ・講演会等の開催
- ◇情報教育の充実
- ◇保護者・地域との連携
 - ・学校いじめ防止基本方針等の周知
 - ・学校公開の実施

早 期 発 見

- ◇情報の収集
 - ・教員の観察による気付き
 - ・養護教諭からの情報
 - ・相談・訴え
(生徒・保護者・地域等)
 - ・投書箱「生徒の声」の設置
 - ・アンケートの実施 (7・12・3月)
 - ・各種調査の実施 (Q-U)
 - ・面談の定期開催
(生徒 4・8月、保護者 7・12月)
- ◇相談体制の確立
 - ・相談窓口の設置・周知
- ◇情報の共有
 - ・報告経路の明示、報告の徹底
 - ・職員会議等での情報共有
 - ・要配慮生徒の実態把握
 - ・進級時の引き継ぎ

別紙 2

緊急時の組織的対応 (いじめへの対応)



※ いじめは解消したが継続した指導が必要

別紙 3

1 いじめられている生徒のサイン

いじめられている生徒は自分から言い出せないことが多い。多くの教員の目で多くの場面で生徒を観察し、小さなサインを見逃さないことが大切である。

場 面	サ イ ン
登校時 朝のSHR	遅刻・欠席が増える。その理由を明確に言わない。 教員と視線が合わず、うつむいている。 体調不良を訴える。 提出物を忘れたり、期限に遅れたりする。 担任が教室に入室後、遅れて入室してくる。
授業中	保健室・トイレに行くようになる。 教材等の忘れ物が目立つ。 机周りが散乱している。 決められた座席と異なる席に着いている。 教科書・ノートに汚れがある。 突然個人名が出される。
休み時間等	弁当にいたずらをされる。 昼食を教室の自分の席で食べない。 用のない場所にいることが多い。 ふざけあっているが表情がさえない。 衣服が汚れていたりしている。 一人で清掃している。
放課後等	あわてて下校する。または、用もないのに学校に残っている。 持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされたりする。 一人で部活動の準備、片付けをしている。

2 いじめている生徒のサイン

いじめている生徒がいることに気付いたら、積極的に生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

	サ イ ン
	教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。 ある生徒にだけ、周囲が異常に気を遣っている 教員が近づくと、不自然に分散したりする。 自己中心的な行動が目立ち、ボスの存在の生徒がいる

別紙4

1 教室でのサイン

教室内がいじめの場所となることが多い。教員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払うなど、サインを見逃さないようにする。

サイン	
	嫌なあだ名が聞こえる。 席替えなどで近くの席になることを嫌がる。 何か起こると特定の生徒の名前が出る。 自己中心的な行動が目立ち、ボスの存在の生徒がいる。 筆記用具等の貸し借りが多い。
	壁等にいたずら、落書きがある。 机やイス、教材等が乱雑になっている。

2 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。生徒の動向を振り返り、確認することでサインを発見しやすい。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。

サイン	
	学校や友人のことを話さなくなる。 友人やクラスの不平・不満を口にするが多くなる。 朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないと言ったりする。 電話に出たがらなかったり、友人からの誘いを断ったりする。 受信したメールをこそこそ見たり、電話におびえたりする。 不審な電話やメールがあったりする。 遊ぶ友達が急に変わる。 部屋に閉じこもったり、家から出られなかったりする。
	理由のはっきりしない衣服の汚れがある。 理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。 登校時刻になると体調不良を訴える。 食欲不振・不眠を訴える。
	学習時間が減る。 成績が下がる。
	持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きされたりする。 自転車がよくパンクする。 家庭の品物、金銭がなくなる。 大きな額の金銭を欲しがる。

別紙5

いじめの構造（発展例）

- ①最初はちよっかい、からかひの領域であり、コミュニケーションのレベルである。
- ②からかわれた方は最初、「反応をする」「このくらいは許せる」程度の感覚でいる。
- ③からかう方がエスカレートし、「反応が鈍い」「やり続けて大丈夫」と変化する。
(いじめの予兆段階、からかわれた方の意識が変化)
- ④人間としての痛みの共有以上に「やり続けることが日常の楽しみ」に変化する。
「悪意」の発生
- ⑤加害側の意識しない悪意、あるいは集団心理のもと、いじめが常態化する。

いじめの様態（発展例）

- ①ネット上での誹謗中傷（画像をアップして嘲る、悪口を書き込む）をする。
- ②直接的、間接的な言葉の暴力（キモい、ウザい、死ね等）をする。
- ③意図的に、または暗黙の了解をし、仲間はずれにする。（主に SNS にて）
- ④叩く等の身体的暴力
- ⑤使い走り、または命令して授業妨害をさせるなどの行為をする。
- ⑥金品を強要する。
- ⑦無理矢理、携帯電話で様々なサイトに登録させる。
- ⑧けんかや些細な人間関係トラブルについても同様である。

別紙6

弘前実業高等学校いじめ防止プログラム

月	学校行事等	いじめ防止プログラム 実施内容等	生徒会行事・活動	備考・その他
4	・入学式 ・1学期始業式 ・PTA総会	・オリエンテーション【1学年】 ・顧問会議【各顧問】 ・面談週間【全校生徒】 ・教育相談委員会	・対面式 ・生徒総会	・基本方針の提示 ・学校HPに提示
5	・遠足	・情報モラル講習会【1学年】 ・教育相談委員会		・生徒指導主事研究協議会
6	・学校評議員・評価委員会	・いじめ防止専門委員会 ・教育相談委員会	・高校総体壮行式、報告会	・ハートフルリーダー研修会
7	・1学期終業式	・教育相談委員会 ・校内研修会【職員】 ・いじめアンケート【全校生徒／保護者】 ・1学期終業式総括【全校生徒】	・球技大会 ・野球・全国大会壮行式	・夏季休業中の心得
8	・2学期始業式	・教育相談委員会 ・面談週間【全校生徒】		
9	・インターンシップ	・教育相談委員会		
10		・教育相談委員会	・弘実祭準備 ・弘実祭	
11		・教育相談委員会	・生徒総会	・ハートフルリーダー等研修事業 <みんなで考えるいじめ防止対策 推進事業 > ・生徒指導担当者研修会
12	・修学旅行 ・学校評価アンケート ・2学期終業式	・教育相談委員会 ・いじめアンケート 【全校生徒／保護者】 ・2学期終業式総括【全校生徒】	・球技大会	・冬季休業中の心得
1	・3学期始業式	・顧問会議【各顧問】		
2		・教育相談委員会 ・いじめ防止専門委員会		
3	・卒業式 ・修了式	・いじめアンケート 【全校生徒／保護者】		
備考		・服装頭髪指導（年7回） ・遅刻防止玄関指導（通年） ・「全教員による生徒指導」 反省文指導（通年） ・生徒指導委員会	・生徒会通信	・学年PTA ・学年集会

※【 】内は対象